

● 「とよなかこども読書マップ」

子どもたちが身近なところで本に親しめるよう、市内で本が借りられるところやおはなし会を実施している施設や場所などの情報を集めて「とよなか こども読書マップ」を作りました。子ども文庫や保育園、幼稚園など60ヶ所の施設や場所を掲載しています。19年度は1万部を発行して、1歳6か月児健診や子育て支援センター、幼児教育支援センターたんぽぽ等の子どもに関わる市内の施設で配布しました。

● 領域ごとの取り組み

領域ごとの全体の事業数と新規事業数とともに、その実施事業数の取り組み状況を一覧にしたものです。

(詳しくは11ページ～48ページをご覧ください)

事業の取り組み状況

	全体の事業数/ (うち実施計画策 定時の新規事業 数)	平成18年度実 施数/(うち新 規事業数)	平成19年度実 施/(うち新規 事業数)	平成19年度末 現在 未実施 事業数/(うち 新規事業数)
1 家庭・地域	21/(7)	15/(3)	17/(1)	4/(3)
2 地域の公共 施設	34/(9)	28/(5)	29/(2)	5/(2)
3 保育所 (園)・幼稚園	23/(0)	23/(0)	23/(0)	0/(0)
4 学校	18/(2)	17/(2)	17/(0)	1/(0)
5 障害のある子 どもや外国 人の子ども	27/(11)	19/(3)	24/(6)	3/(2)
6 市立図書館	41/(12)	37/(7)	37/(2)	4/(3)
計	164/(41)	139/(20)	147/(11)	17/(10)

新規事業を実施した場合、実施年度の翌年より継続事業とみなします。

● 子ども読書活動の評価の検討について

平成18年度については、取り組みが実質1年目であるため、評価の指標などの設定を行いませんでした。その代わりに事業主体である関係部局・機関、団体などに、取り組みの課題を事業実施報告書に詳しく書き込んでいただくことで、今後の見直しに反映することとしました。また平成19年度は平成18年度の事業報告をもとに、子ども読書の評価についての検討をおこないました。具体的な検討項目として、1. 指標（めやす）となる項目、2. 子ども自身の声を反映する取り組みの2点をあげ、推進連絡協議会およびワーキンググループで討議しました。

（推進連絡協議会で出された意見の一部）

- ・ 子ども読書の4つの柱（基本方針）にそのような指標が必要
- ・ 評価の指標として、数値だけでは評価できない場合もある。数だけででないものをどう拾っていくかが課題である。
- ・ 子どもの読書環境を整えるというのが指標になるのではないか。
- ・ 数値目標を立てて進めていかないとやりにくいこともある。
- ・ 定量的に評価できた部分から指標を広げ、計れないものは事業参加された方の意見を拾うとアウトカムが出てくるのではないか。

以上の意見などをふまえ、定性・定量の評価、両方を併記するという一方で、次の3つの数値や記述の組み合わせ（①②③）を基本に子ども読書活動の評価を行うこととし、平成20年度の子ども読書活動推進連絡協議会およびワーキンググループで継続して討議することになりました。

- ① 子ども読書活動推進計画実施計画の領域ごとの取り組み（164）の実施数
- ② 領域ごとの取り組みの中で集約できたアンケートなどの記述（「サロンに参加して家でも絵本を読むようになった」）などにより、数値ででないものを表わす
- ③ 領域ごとの取り組みの指標を一覧にしたもの（回数や参加人数など）

特に③の資料については書式なども含めてワーキンググループ会議で継続して討議することになっています。また子どもの声をひろう仕組みづくりということにも関わるため、引き続きアンケート調査などの実施について検討する予定です。